

土地確保 ~全てにめではまるこじ~

気仙沼には山が多く低地が少ない。そのわずかな低地は、がれきたりけとなっている。復興住宅をたてる土地を確保するためには...

- ① 仕事がなく仕事をした人にかきまて、手作業をしてもらう。復興も進み、一石二鳥。
 - ② 住民のまよかを復て、山を切り開く。
- それでも工事がたりない場合は...
- ③ 気仙沼の漁業にえいしょうがてないていじ、うめたて地をつくる。

早く土地を確保し、皆を普通の家にすませてあげる!

特産物をいかして...

① 気仙沼港博物館

をつくる。やる事は、

- ・2か月に1回くらい、漁師さんのお話の時間をつくる。(博物館ではないが、夏や冬、春休みの時期に漁業体験会を開く)
- ・気仙沼港でとれる魚、(カジキ、カツオなど)を使った料理をあつかう店を開く。
- ・被災してどのように港が変わってしまったのか、なびの展示・教室を行う。



② はやく加工工場をつくる。

港では魚が沢山とれいている。しかし、工場がないため、すぐに魚を届けられない。そこで、今度加工工場は2つをつくる。1つ目は海の近く、そしてもう1つは、港から遠くないが高い所にある工場。もしまた津波が来ても、魚は出せるようにしておく。

魚は気仙沼の象徴とも言えます。
魚で復興をがんばろう!

避難者のために

津波が来た時に、山に老人がちせんせにけらゆるような道を、つっておく。また、高台には安全な避難所を設置する。

大会

定期的にお祭りやスポーツ会を開いて気仙沼を明るく元気にする!
また、気仙沼港でとれた魚で料理する料理大会を開く。

休める場所

関東・九州・四国・西

日本から北海道などに「行く人」が休めるような道の駅をつくる。「復興」ストラップ(ホヤぼーやなど)とか、気仙沼港でとれた魚(貝はらら・かまぼこ)などを売り、今度には北海道などだけでなく、気仙沼にも来てね!
私達は復興に向けてがんばっています! とアピールする。

津波対策とふれあい

高台



①



も集落



子どもがいる人
1人ぐらしの若者
なびの卒業がある人

②



提防



年をとっていて、ずっとそこにすんでいた人

このように、子どもがいる人、若くない人は3月11日のような大きな津波に備えるために高台にすみたい人が多い。しかし、老人のような、ずっと気仙沼にすんで来た人は死ぬまで気仙沼にすみたいと思ってる。2つの願いに応じて、高台と被災地、両方に町をつくる。もちろん、老人などのために、今までよりは高い提防をつくる。

また、月に1度、気仙沼大避難訓練を行う。そして、いつ地震・津波がおきても大丈夫なようにしておく。そして、地震・津波の時に1人の老人が出ないように高台にすむ人と被災地にすむ老人でペアをつくらせておく。そして避難訓練時に確認しあったりする。そして高台の小中学校と老人ホームのふれあい会を行って仲をよくなる。また、ふれあいの場をつくらせて話合事によって、心を少しづつなおしていく。

外国人へのよびかけ



気仙沼市観光キャラクターの「海の子ホヤぼーや」に協力してもらう。
外国にホヤぼーやを見せて、気仙沼の復興に興味をもってもらおう。
子どもにはアニメなどで興味をもってもらおう。

↓
世界から気仙沼を応援してもらう。